

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	13-093	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Demographic, socioeconomic, disease history, dietary and lifestyle cancer risk factors associated with alcohol consumption. 飲酒と関連する人口統計学的、社会経済的、既往歴、食事と生活スタイルにおけるがんのリスクファクター		
執筆者		
Touvier M, Druesne-Pecollo N, Kesse-Guyot E, Andreeva VA, Galan P, Hercberg S, Latino-Martel P.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2014 Jan 15;134(2):445-59. doi: 10.1002/ijc.28365.		
キーワード		PMID
がんのリスクファクター、飲酒、人口統計学、既往歴、食事と生活スタイル		23824873
要 旨		
目的： 飲酒と飲酒以外のがんの危険因子との関連については十分な報告はない。今回の研究の目的は、1. どのような人口統計学的、ライフスタイルと食事の因子が飲酒量と関係しているか評価すること、2. 酒の種類による飲酒者のプロファイルを明らかにすること、3. 飲酒量によって個人のレベルで増加するがんのリスクファクターの数を推測することである。		
方法： アルコールと食事は6つの24時間の記録があるNutriNet-Santa コホート研究の29,566人を対象とした。アルコール消費量と関連する因子は非飲酒者をリファレンスとし、飲酒量をアルコール換算で1日10g未満と10g以上に分け性別によって多変量解析を行った。飲酒者においては、それぞれのアルコール飲料の種類ごとの飲酒割合はKruskal-Wallis rank テストを使用し社会人口統計学、ライフスタイルの特徴を比較した。		
結果： 高齢(p(男性)=0.02, p(女性)<0.0001)、喫煙(p(男女とも) <0.0001)、高度な専門職(p(男女とも)<0.0001)、高収入(p(男性)=0.003, p(女性)<0.0001)、健康的な食生活を送っていない人が男女ともに10g/日以上飲酒者に関連があった。対象者の背景は、アルコール飲料の種類によって変化にとんでいた。男性においては、CVDの既往(p=0.0002)、うつ病の既往(p=0.03)、女性においては、肝硬変の既往(p<0.0001)のある人が少ないアルコール消費であった。女性においては、がんの病歴は中等度のアルコール飲酒者で低合を示していた(p=0.04)。男女ともに、多量飲酒者のがんリスク(中央値 5)は全く飲酒しない人のリスク(中央値 4)と比較して多かった。		
結論： 飲酒と関連したライフスタイルの多様性は、がんの予防において考慮されなければならない。がんを含むアルコール関連の疾病の既往歴や家族歴を有する人々に対する性特異的な医学的なアドバイスは強化されるべきである。		